日本犯罪心理学会

Japanese Association of Criminal Psychology

第 61 回大会プログラム

（お茶の水女子大学正門）

2023 年 9 月 23 日(土)・ 24 日(日)

お茶の水女子大学（オンライン開催）

日本犯罪心理学会
Japanese Association of Criminal Psychology

暴力を手放す

児童虐待・性加害・家庭内暴力へのアプローチ

佐々木大樹 著

暴力の定義，起源，要因や各領域での支援実践を概観し，児童の暴力を手放すための支援モデルとセラピストの適切な「ありよう」を提示する。

A5判　並製　212頁　定価3,520円

性暴力被害の心理支援

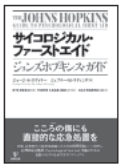
齋藤　梓，岡本かおり 編著

性犯罪や性暴力の被害に遭った方を支援する際に，知っておくべき基礎的な知識や心理支援の基本を，架空事例をとおして詳述する。

A5判　並製　248頁　定価3,520円

サイコロジカル・ファーストエイド

ジョンズホプキンス・ガイド



G・S・エヴァリー，J・M・ラティング 著
澤 明，神庭重信 監訳

災害などの緊急事態における急性期のこころのケア，心理的応急処置（PFA）（ルビ：サイコロジカル・ファーストエイド）の最良のモデルを示す実践的ガイド。

A5判　並製　264頁　定価3,740円

〈効果的な〉精神科面接

力動（ダイナミック）的に診るということ

平島奈津子 著

日々の臨床実践を重ねた精神科医が、治療者を目指す人たちへ向けて、〈効果的な〉精神科面接を力動精神医学の視点で解説する。

四六判　上製　256頁　定価3,520円

トラウマ・リカバリー・グループ

実践のための手引き

M・メンデルソン，J・L・ハーマン他 著
杉山恵理子，小宮浩美 訳

複雑性PTSD概念の提唱者として知られるジュディス・L・ハーマンが示す，目標指向的・相互支援的なグループ療法のためのマニュアル。

B5判　並製　256頁　定価3,740円

臨床心理学スタンダードテキスト

岩壁 茂，遠藤利彦，黒木俊秀，中嶋義文，中村知靖，橋本和明，増沢 高，村瀬嘉代子 編

臨床領域・学問領域ごとに第一人者が展開する集合知の結晶であり、公認心理師時代を迎えた臨床心理学の新基準スタンダード。

B5判　上製　1000頁　定価16,500円

Ψ 金剛出版　〒112-0005　東京都文京区水道1-5-16　https://www.kongoshuppan.co.jp/
Tel .03-3815-6661　Fax.03-3818-6848　＊価格は税込表示（10%）です。

◆ オンタイムプログラム スケジュール ◆

2023年９月23日（土）

	Zoom１	Zoom2
9:00	開場	
9:15	開会挨拶	
9:30	**企画シンポ１（SY01）** 犯罪者・非行少年が過去を振り返ること，語ること ー心理臨床と基礎研究のコラボレーションー	**企画シンポ２（SY02）** 臨床犯罪心理学における感情労働 Ⅱ ー実務家の情緒的体験と行動変容ー
12:00	休憩	
12:45	総会（Zoom１）	
13:45	休憩	
14:00	**全体シンポジウム（SY0）** 自傷と他害を考える （Zoom１）	
17:00		

2023年９月24日（日）

	Zoom１	Zoom2
9:00		
9:30	**企画シンポ３（SY03）** 警察活動における対象者の動機づけ ー動機づけを高めることの意義とそのためのアプローチー	**企画シンポ４（SY04）** 犯罪者と子どもや家族との関係性を支援する ー犯罪者支援・家族支援の現場からー
12:00	休憩	
13:00	**企画シンポ５（SY05）** 加害者処遇と被害者支援のあいだ	**企画シンポ６（SY06）** 研究活動に気軽に取り組むためのTips
15:30		

注１：上記の全体シンポジウム・企画シンポジウムはライブ配信の視聴となりますが，終了後に準備ができ次第，大会サイトにアップロードする予定です。ライブ配信の企画に関しては，質問やコメントは配信中のみ受け付けます。

注２：口頭発表・ポスター・公募シンポジウムは全てオンデマンド配信（録画・サイトへの掲示）のみの実施です。

注３：アップロードされた録画内容やコンテンツは2023年10月11日（水）まで視聴可能です。

注４：総会への出席は会員の方に限ります。臨時会員の方はお手数ですが，総会終了時刻に再度ご入室願います。

大会参加者へのご案内

1. 大会受付

本大会はオンライン開催となるため，事前に参加登録をお済ませいただき，学会ウェブサイトの「大会」ページ https://www.jacpsy.jp/meeting に設置される「Web 会場」ボタンより，ログイン IDと大会参加登録メールアドレスを入力の上，ログインください。ログインIDは参加登録時に登録メールアドレスにお伝えしているものです（会員は会員番号，臨時会員はNから始まる番号）。

ライブ配信につきましては，両日ともに 9 時 00 分より入室可能となります。

2. 大会諸費用

大会参加費　正会員・臨時会員（一般）　7000 円

正会員・臨時会員（学生）　3000 円　＊学生証の画像アップロード必須

懇親会費　オンライン開催につき，今回は行いません。

＊領収書は，参加費入金決済後に申込システムにてダウンロードする形式となります。

＊参加証は発行しません。

＊名誉会員の大会参加費は，無料です。

3. 発表形式

公募シンポジウム，口頭発表は事前に収録していただいた動画をオンデマンド配信します。ポスター発表は，e ポスターを作成していただき，オンラインで配信します。いずれも，2023 年 9 月 20 日（水）13時から同年 10 月 11 日（水）まで視聴可能です。各発表のページでは質問やコメントを行うことができます。ただし，質問やコメントの受付期間は，同年 10 月 8 日（日）までとします（回答は同年10月11日（水）まで可能です。）。

大会全体シンポジウム及び大会準備委員企画シンポジウムはライブ配信に加えて後日オンデマンド配信を行います（アップロードに時間を要するため，配信可能日は後日発表します）。

4. ライブ配信参加時の注意事項

ログイン時には，必ず申込時と同じ表記のフルネームで氏名を表示するようにしてください。氏名が表示されていない場合や，申込者と判断できない場合は，退出していただく場合がありますので，ご注意ください。また，マイクはミュート，ビデオはオフでお願いします。全体討議，質疑応答で発言する際は，マイク・ビデオともオンにしてください。発表の録画，録音などはしないでください。

5. 総会

第1日目の 12 時 45 分から 13時 45 分までZoom1にてライブ配信で行います。

6. 抄録原稿の提出方法

Web 上での提出になります。2023 年 8 月 31 日(木)までに, 発表申込と同じ申込システムから投稿してください。

抄録原稿に関する問い合わせ先

日本犯罪心理学会第 61 回大会抄録原稿問い合わせ受付係

〒162-0801　東京都新宿区山吹町 332-6　(株)国際文献社内

E-mail: jacp61@bunken.co.jp

口頭発表のご案内

1. 口頭発表

口頭発表は，一般発表のみです。セキュリティの観点から事例発表は行いません。

発表時間は 12 分です。口頭発表は，PowerPoint などを用いて動画ファイル（mp4 形式を推奨）の動画を作成していただき，発表申込と同じ申込システムからアップロードしていただきます。また，質問受付期間（2023 年 9 月 20 日（水）13時 ～ 10 月 8 日（日））に寄せられた質問に回答をしていただきます。

2. 発表成立の要件

あらかじめ定められた方法で動画を作成し，寄せられた質問に回答することにより，発表が成立したと認められます。

3. 責任発表者，連名発表者

プログラムで〇印が付いている方が責任発表者です。

ポスター発表のご案内

1. ポスター発表

ポスター発表は，一般発表のみです。セキュリティの観点から事例発表は行いません。

ポスター発表では，e ポスターを PDF 形式で作成していただき，これを発表申込と同じ申込システムからアップロードしていたただきます。ポスターは，最上段に，題目・氏名・所属を明記してください。また，質問受付期間（2023 年 9 月 20 日（水）13時 ～ 10 月 8 日（日））に寄せられた質問に回答をしていただきます。

2. 発表成立の要件

ポスター発表では，あらかじめ定められた方法で，PDF 形式での e ポスターを作成し，寄せられた質問に回答することにより，発表成立が認められます。

3. 責任発表者，連名発表者

プログラムで〇印が付いている方が責任発表者です。

全体シンポジウム（SY00）　　9 月 23 日(土) 14:00 ～ 17:00 Zoom 1

自傷と他害を考える

企 画・司 会　高 橋　　哲　（お茶の水女子大学）
話題提供者　松 本　俊 彦　（国立精神・神経医療研究センター）
話題提供者　菊池　安希子　（武蔵野大学）
話題提供者　野 坂　祐 子　（大阪大学）
話題提供者　寺 村　堅 志　（常磐大学）

一般に，犯罪や非行は他人を傷つけたり，他者の権益を害したりする行為であるが，一方で，犯罪者や非行少年が自殺や自傷のハイリスク集団であることもよく知られている。自傷他害のおそれは司法精神医学との関連が深くあるが，犯罪心理学の領域においても，両者は虐待の被害と加害，内在化・外在化問題行動，いわゆる拡大自殺等の文脈において様々な観点から検討がなされてきた。自傷と他害は一見相反するもののようで一人の人の中に併存することもあり，コインの表と裏などと称されることもある。このように正反対のように見えて密接に絡みあう現象を探求することは，犯罪や非行というとらえ難い現象を多面的に理解する上で欠かせない。

全体シンポジウムでは，犯罪者や非行少年の集団における自傷や他害という現象とそれらの関係性，背景にある要因，それぞれの行動を理解する枠組み，予防や対策等について，各分野の著名な研究者や臨床家の方々に最新の知見を御紹介いただく。

具体的には，各話題提供者から「矯正施設の被収容者における自傷行為」，「リスクアセスメントからみる医療観察法対象者」，「トラウマインフォームドケアからみる児童・思春期の自傷・他害」，「無差別殺傷事案といわゆる拡大自殺」について話題提供をいただく。その上で，会場の参加者をまじえ，自傷と他害を行う非行少年や犯罪者の理解と支援にいかすために何ができるか，今後の探求が必要な研究の方向性は何かといった事柄について議論を行う予定である。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY01）　9 月 23 日(土) 9:30 ～ 12:00 Zoom 1

犯罪者・非行少年が過去を振り返ること，語ること

－心理臨床と基礎研究のコラボレーション－

企画・司会・話題提供者　大江　由香（川越少年刑務所）
話題提供者　家﨑　哲（府中刑務所）
話題提供者　平野　貴子（府中刑務所）
話題提供者　糸井　岳史（路地裏発達支援オフィス，川越少年刑務所）
話題提供者　越智　啓太（法政大学）

犯罪・非行臨床においては，調査や鑑別，指導，個別面接といった様々な場面で犯罪者や非行少年に自分の過去を振り返らせ，語らせる。しかし，この当たり前のように行われているプロセスの目的や意義，効果などについて，深く考えたことや科学的根拠を学んだことはあるだろうか。犯罪者や非行少年が自分の過去を語るときに，本人の内面，担当者（治療者）との二者関係，あるいはグループで何が起こっているのだろうか。

本シンポジウムでは，矯正施設の調査や指導，スクールカウンセリング，心理臨床に携わる実務家による臨床的な視点と，近年の認知心理学を始めとする基礎研究の結果を踏まえた科学的な視点の両方から，犯罪者・非行少年が自分の過去を振り返り，語ることの意味や意義について議論し，犯罪・非行臨床におけるより良い過去の扱い方を探る。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY02） 9 月 23 日(土) 9:30 ～ 12:00 Zoom 2

臨床犯罪心理学における感情労働 Ⅱ

－実務家の情緒的体験と行動変容－

企画・司会　門本　泉（大正大学）
話題提供者　元木　良洋（東京拘置所）
話題提供者　岡本　聖美（東京保護観察所）
話題提供者　田中　教仁（駒沢女子大学）

本シンポジウムは，第60回大会におけるシンポジウムの続編である。

司法・犯罪心理学における臨床的な援助は，専門家に，この領域に特有の負担をしばしば課すことになる。今回は，対象者との具体的なかかわりの中で，実務家が経験し得る重要な情緒的体験と，その後の行動変容をつなぐものについて考察したい。異なる司法機関からのシンポジストを迎える。田中教仁先生からは，家庭裁判所調査官としての立場から，少年・家事事件における経験を，次に岡本先生からは保護観察という社会内処遇の枠組みでの経験を，さらに元木良洋先生からは，矯正施設における鑑別・処遇の中での経験をもとに御発表いただき，各領域においてどのような重要な情緒的な体験が生じ得るのか，それらの体験を実務家はどのように消化し，考察し，自己洞察につなげ，専門家としての行動変容につなげていくのかについて，フロアと共に考えていく予定である。

時間的制約も考慮し，前回同様，指定討論者は設けない。フロアの各人が討論者となり，シンポジストと活発な意見交換ができることを目指すつもりである。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY03）　9 月 24 日(日) 9:30 ～ 12:00 Zoom 1

警察活動における対象者の動機づけ

－動機づけを高めることの意義とそのためのアプローチ－

企画・司会・話題提供者　横田　賀英子　（科学警察研究所）
話題提供者　中野　友香子　（科学警察研究所）
話題提供者　松田　いづみ　（青山学院大学）
指定討論者　桐 生　正 幸　（東洋大学）

警察活動では，一般市民や事件関係者との関わりによって，犯罪や事故の未然防止や犯罪捜査活動を推進する場面が多くある。これらの活動をうまく遂行するためには，目的を達成するための具体的な技法や手続きのみならず，警察が関わる対象者の動機づけや主体的な関与度を高めることも重要である。

本シンポジウムでは，対象者の動機づけが重要な要素となる具体的な場面として，交通安全教育，事情聴取，ポリグラフ検査を取り上げる。そして，それぞれにおいて，対象者の動機づけや主体的関与を促すことがどのような意味を持つのか，そのために具体的にどのようなアプローチが考えられるのかについて，各話題提供者が報告する。最後に，それらを踏まえ，警察活動において，対象者の動機づけや主体的関与を高めることの意義と，そのために今後求められる研究の方向性について全体で議論する。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY04） 9 月 24 日(日) 9:30 ～ 12:00 Zoom 2

犯罪者と子どもや家族との関係性を支援する

－犯罪者支援･家族支援の現場から－

企画･司会･話題提供者　佐々木　彩子　（矯正研修所効果検証センター）
話題提供者　村中　李衣　（ノートルダム清心女子大学）
話題提供者　服部　広正　（高松少年鑑別所）
話題提供者　鶴田　俊男　（東京保護観察所立川支部）
話題提供者　阿部　恭子　（NPO 法人 World Open Heart）

犯罪者支援においては，犯罪者自身が一義的な支援対象となり，その子どもや家族との関係性については見過ごされがちである。しかしながら，犯罪者の子どもや家族については，犯罪者の更生にとって重要なリソースとなり得る上，子どもや家族自身も加害者家族であるがゆえの苦悩を抱えた“隠れた被害者”として支援を要する存在でもある。このように犯罪者の子どもや家族の視点から犯罪という現象を捉え直すことで，犯罪者側からは見えなかった現実が見え，そこから支援のヒントを得ることも期待できる。

そこで，本シンポジウムでは，犯罪者と子どもや家族との関係性に着目し，それぞれの立場から実践や研究を重ねてこられた専門家から，両者の実態や支援ニーズ等について話題提供いただき，両者への支援の接点を探るとともに，犯罪者支援の中に子どもや家族の視点を導入することの意義や可能性，課題等について議論する。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY05） 9 月 24 日(日) 13:00 ～ 15:30 Zoom 1

加害者処遇と被害者支援のあいだ

企画・司会・話題提供者	谷　真如	（内閣官房）
話題提供者	瀬戸　佑一	（長野保護観察所）
話題提供者	宗田　貴宏	（山形刑務所）
話題提供者	齋藤　梓	（上智大学）
話題提供者	柴田　建	（大分大学，逗子ストーカー事件遺族）

令和4年に成立した刑法等改正に係る法制審議会の答申や第4次犯罪被害者等基本計画では，被害者の視点に立った処遇の実施等が求められており，矯正では新たに刑の執行段階における被害者等の心情等の聴取・伝達制度が整備され，更生保護法では指導監督の方法として被害回復・軽減に努めるよう指示する旨が追加されることとなるなど，被害者等支援と加害者処遇を有機的に連動させ，被害者等の思いに応える加害者処遇が求められている。

一方で，被害者等の心理支援の視点からは，一人ひとり個別的な心情等も異なり，加害者との一切の接触を望まない被害者等も多いことなどにより，加害者処遇に望まれること，配慮すべき事項などは必ずしも明らかではない。また，被害者等の心情を踏まえれば，被害弁償やしょく罪の実施は必要でありながらも，加害者の状況によっては生活再建と再犯防止を優先せざるを得ない場合もある。

本シンポジウムでは，加害者処遇，被害者支援，あるいはその双方に関わった経験を有する実務家，そして当事者である被害者遺族がそれぞれの視点から意見を交換し，被害者等から望まれる加害者処遇と，改善更生・再犯防止に向けた取組との接点と距離とをさぐることを試みる。

大会準備委員会企画シンポジウム（SY06） 9 月 24 日(日) 13:00 ～ 15:30 Zoom 2

研究活動に気軽に取り組むためのTips

企画・司会・話題提供者　山岡　あゆち　（東京大学）
話題提供者　合澤　典子　（お茶の水女子大学）
話題提供者　有野　雄大　（東京保護観察所立川支部）
話題提供者　萩野谷　俊平　（明治学院大学）

研究活動は，特に実務家においては方法論への不安や，学術動向などの情報不足，心理的ハードルの高さもあって，多くの人が研究活動に精力的には取り組みにくいことも現状である。また，単独で研究活動を行う場合は課題を抱え込みやすく，行き詰まることも少なくない。犯罪心理学の発展には様々な切り口から犯罪心理学関連諸領域の実務家及び学術関係者が積極的に研究活動に従事することが欠かせない。

そこで，本シンポジウムでは多種多様なバックグラウンドをもつ若手研究者による研究活動の実際，研究の面白さや悩みやTipsを取り上げる。具体的には学生をはじめとする研究の初心者や若手研究者を対象に，海外も含めた学会発表，英語論文も視野に入れた論文執筆と論文の投稿，研究資金の獲得，心がけ，仕事やプライベートと研究の両立などについて，各話題提供者が簡単な報告をする。最後は会場全体からも質問や情報提供を受けながら，研究活動の更なる発展に向けて全体で議論を行う。

公募(自主企画)シンポジウム(SY07)　　事前録画(オンデマンド)方式

アセスメントの視点で連携・協働を考える

―知っておきたい, それぞれのアセスメント―

企画・司会　須藤　明　(文教大学)
話題提供者　岡本　吉生　(日本女子大学)
話題提供者　吉村　雅世　(東京拘置所)
話題提供者　戸井　宏紀　(東洋大学)
話題提供者　丸山　泰弘　(立正大学)

2019年7月20日に行われた犯罪心理学会の第2回全国研修会では,「非行・犯罪臨床におけるアセスメント」をテーマに家裁, 矯正, 保護の各立場からのアセスメントが報告され, 有意義な議論がなされた。この研修会で紹介されたアセスメントは, 既存の司法システム内で専門家が行っているものであるが, 刑事司法全体に目を向けると, 入口支援や出口支援で注目されている心理専門職による情状鑑定や福祉専門職による更生支援計画におけるアセスメントがある。これらのアセスメントは, 共通項もみられる一方で, 視点や力点が異なっているのも事実である。

司法は, 少年事件ばかりではなく, 成人事件においても人間行動科学の専門家の関与を必要としている。また, 昨今の刑法改正では, 拘禁刑における改善更生が強調されており, 成人矯正分野におけるアセスメントの役割が重要になると考えられる。こうした問題意識に基づいて, 様々な領域および心理専門職と福祉専門職のアセスメントについて整理し, 機関や専門職間の連携・協働の可能性について改めて考えていきたい。

公募(自主企画)シンポジウム(SY08)　　事前録画(オンデマンド)方式

ハイリスク・ストーカーへの法と臨床

―新たな視点の展開―

企画・司会・話題提供者	廣井　亮一	(立命館大学)
討論	城下　裕二	(北海道大学)
討論	後藤　弘子	(千葉大学)
討論	中村　正	(立命館大学)
討論	安田　裕子	(立命館大学)
指定討論者	指宿　信	(成城大学)

2022 年度にストーカー規制法違反で摘発した件数が過去最多を更新した。近年のストーカー事案は，事態が急展開し殺人など重大事件に及ぶ傾向がある。そうしたハイリスク・ストーカーへの対応として，警告を経ずに禁止命令を発する法改正をして命令を多発したが，命令に従わず相手を恨みストーキングを凶悪化させる加害者が絶えない。

対応策として，禁止命令の際に加害者の意識や行動改善の「受講命令」や医療機関の診察を「義務づける」措置が提案されている。しかし，そうした対応も結局は「命令」「義務」でありハイリスク・ストーカーが従うとは思われない。博多ストーカー殺人事件の加害者のように未熟で歪んだ「攻撃性と依存性」のストーカーは，そうした対応にさらされると相手にさらにしがみつき(歪んだ依存性)，過激な攻撃に及ぶ(歪んだ攻撃性)。また，仮に逮捕，実刑判決を受けても，その間にさらにうらみを募らせて仮釈放後に同様な行動化のおそれがある。したがって問題提起として，ストーカー規制法の一連の対応に果たしてどのような実効性のある臨床的関与を位置付けることができるのか。その実現のための課題及び法と臨床の新たなアプローチについて，治療的司法の研究メンバーによる議論を公開したい。

公募(自主企画)シンポジウム(SY09)　　事前録画(オンデマンド)方式

非行少年の立ち直りに向けた指導及び支援の在り方について

－生育環境及び保護者の実情を踏まえたアプローチ－

企画・司会　鈴木　愛弓　(法務総合研究所)
話題提供者　森本　朝香　(法務総合研究所)
話題提供者　金綱　祐香　(法務総合研究所)
話題提供者　東山　哲也　(函館少年鑑別支所)
話題提供者　大西　美加　(赤城少年院)
指定討論者　仲　　真紀子　(理化学研究所)

多くの先行研究で，非行少年は一般の少年よりも，被虐待経験等の生育環境上の様々な逆境的な体験を経験している者が多いことが指摘されている。その背景の一つには，非行少年の保護者においても，自身の経験や少年の養育に関して，様々な困難を抱えていることが少なくないということが挙げられる。これらを踏まえると，非行少年の立ち直りに向けた指導及び支援を行うに当たっては，非行少年を取り巻く生育環境や保護者の実情等についても考慮することが重要であると言える。

本シンポジウムでは，「研究」と「実践」のそれぞれの立場の話題提供者から，非行少年とその生育環境に関する知見を紹介する。まず，少年院在院者・保護観察処分少年及びそれぞれの保護者を対象として実施した質問紙調査の結果から，被虐待経験，ヤングケアラー，相対的貧困等の非行少年を取り巻く生育環境や，非行少年の保護者の状況について明らかとなった知見を紹介する。また，少年鑑別所における鑑別・地域援助や，少年院における指導等に実際に携わっている立場から，非行少年を取り巻く生育環境及びその保護者の実情等を踏まえた取組について紹介する。さらに，指定討論者による討論を踏まえた上で，非行少年の立ち直りに向けた指導及び支援の在り方について議論していく。

公募(自主企画)シンポジウム(SY10)　　事前録画(オンデマンド)方式

当事者から見た非行からの離脱

－非行少年の立ち直りを共に考える－

企画・話題提供者　林　秋成　(新潟刑務所)
司会　里見　聡　(大阪少年鑑別所)
話題提供者　塩川　友紀子　(長野刑務所)
指定討論者　才門　辰史　(NPO 法人セカンドチャンス！)
指定討論者　森　貫太　(岐阜少年鑑別所)
指定討論者　津富　宏　(静岡県立大学)

近年，矯正施設出所後の再犯・再非行防止に向けた施策が進められる中で，非行・犯罪からの離脱過程に注目が集まっている。離脱研究では，当事者(離脱者)の語りを分析する中で，当事者の視点から社会に再統合されていく個人に関する変化のプロセスを理解しようとし，当事者と周囲の環境との相互作用や当事者の主観的体験を捉えることにより，非行・犯罪からの離脱過程・要因を考察している。本シンポジウムでは，少年院を出院後に非行から離脱した当事者，施設内で矯正教育を行う法務教官や鑑別等を行う心理技官，非行・犯罪からの離脱を研究する専門家を迎え，出院後に非行・犯罪から離脱し，立ち直った当事者の語りに基づき，回顧的に離脱過程や少年院での体験を振り返るとともに，法務教官の矯正教育の実践や少年院のシステム・制度も踏まえ，離脱を促進・阻害する要因を明らかにすることを主眼とする。その上で，矯正施設内(少年院等)の処遇・取組，職員と少年との関係性等が，施設出所後の離脱や立ち直りにどのように，どの程度，影響しているかついて具体的に検討を行いたい。また，本シンポジウムでは扱わないものの，矯正職員がどのように離脱や立ち直りを促進できるかといった実務者としての課題について，今後の道標となる議論を進め，本大会のテーマである「(離脱)研究と実践をつなぐ」ような将来の展開も期待したい。

公募(自主企画)シンポジウム(SY11)　　事前録画(オンデマンド)方式

発達障害のある矯正施設退所者への住居・福祉・医療・就労の支援体制の構築

－調整者，支援者および利用者の語りから－

企画・指定討論者	熊上　崇	(和光大学)
司会	野口　晃菜	(一般社団法人 UNIVA)
話題提供者	日向　洋平	(横浜刑務所)
話題提供者	長谷川　隆	(株式会社 LITALICO パートナーズ)
話題提供者	百合山　久世	(株式会社 LITALICO パートナーズ)
話題提供者	鈴木　美乃里	(株式会社 LITALICO パートナーズ)

矯正施設から退所した障害のある人は，地域でどのような支援を受け，どのように生活を移行していくのだろうか。近年，矯正施設から退所した障害のある人が必要に応じて福祉的支援をスムーズに利用するための施策として，釈放後速やかに適切な介護，医療，年金等の福祉サービスを受けることができる「特別調整」が実施されている。一方で，特別調整を受けることができないが，福祉や医療を必要としている障害のある出所者への支援が課題となっている。本シンポジウムは，2021年度には触法障害者の支援経験のある就労支援事業所からの報告を交えながら，触法障害者の地域生活移行を促進するために，就労支援事業所においてどのような支援や施策が考えられるのか検討した。また翌2022年度には，精神疾患のある退所者の方に関して，刑務所・居住支援・就労移行支援事業所が連携をしたケースについてそれぞれの立場から報告した。

これらの研究成果を踏まえ，2023年度は，発達障害のある退所者が，刑務所の福祉専門官の調整により，更生保護施設やグループホーム，訪問看護などの居住・医療，福祉的支援を受けながら，就労移行支援事業所で支援を受けているケースについて，刑務所の福祉専門官・就労移行支援事業所の支援員・ご本人(代理で就労移行支援事業所の支援員)，それぞれの立場から報告する。そのうえで，矯正施設から退所した障害のある人の社会的・心理的支援の課題について議論したい。

口頭発表

A. 処遇

OR-01
累犯刑務所における性犯罪者の再犯の経路(2)
－セルフ・レギュレーション・モデルを用いた分析－
○平野 貴子(府中刑務所)

累犯刑務所における性犯罪再犯防止指導の効果を高めることを目的として，セルフ・レギュレーション・モデルを用いて再犯の過程を分析した。

OR-02
少年院の教官から見た少年の行動変化における主観的なプロセス
○菅野 哲也(矯正協会矯正研究室)

少年院の指導現場において，教官から見た少年達の内的な体験，主観的プロセスの変化について，教官7人にインタビューを行い，その結果をM-GTA法を活用して分析・概念化する。

OR-03
受刑者の就労に関連する心理・社会的要因について(2)
－新受刑者の感じる出所後の就労への希望と不安－
○山岡 あゆち [1]，佐々木 彩子 [2]([1] 東京大学，[2] 法務省矯正研修所効果検証センター)

本研究は，男女受刑者に対して実施した調査における出所後の就労に関する希望や不安に関する自由記述についてテキストマイニングを用いて分析し，性差などの検討を行う。

OR-04
再犯防止を目的とした心理学的介入スキル向上プログラムの開発
－刑務所職員を対象としたパイロットスタディ－
○村尾 拓哉 [1]，野村 和孝 [2]，篠山 義郎 [1]，安部 尚子 [1]([1] 加古川刑務所，[2] 北里大学)

心理学的介入スキル向上トレーニングに，実施者自身のセルフマネジメントを組み合わせたプログラムが，実施者のスキル向上に及ぼす影響について検討を行った。

OR-05

非行少年におけるエピソード的未来思考の遅延価値割引に対する抑制効果

○片桐 弘明[1], 今村 悟也[2], 猪股 由衣[3]([1] 東京拘置所, [2] 東京矯正管区, [3] 大阪少年鑑別所)

非行少年を対象とし, エピソード的未来思考(EFT)による遅延価値割引への抑制効果について検討し, EFTの自己制御のツールとしての可能性を検討する。

OR-06

再犯防止を目的とした認知行動療法に基づく心理的介入におけるコンピテンスの検討

○篠山 義郎[1], 安部 尚子[1], 村尾 拓哉[1], 野村 和孝[2]([1] 加古川刑務所, [2] 北里大学)

わが国における再犯防止の心理学的介入においては, 認知行動療法に基づくプログラムの実践が行われている。実践において, 実施者に求められるコンピテンスの検討を行った。

OR-07

処遇前の時間的展望等と再犯との関連

－探索的研究－

○大江 由香(川越少年刑務所)

過去, 現在, 未来の分断あるいは統合は, 自己理解や先の見通しに影響する。本研究では, 処遇前の時間的展望と再犯との関連を調べ, 処遇反応性としての可能性を探る。

OR-08

受刑者の出所時アンケートから見る拘禁刑時代における新たな処遇の在り方について

○奥村 俊樹, 高野 洋一, 髙市 奈巳(松山刑務所)

受刑者に対する出所時意識調査アンケートの集計結果を分析し, 現法下の刑務作業や改善指導の効果・ニーズを把握することで, 拘禁刑時代における新たな処遇の在り方を探る。

OR-09
フランスの少年・若年受刑者の「大切な音楽」についての語りの分析
○松本 佳久子（武庫川女子大学）

フランスの少年受刑者および若年受刑者を対象に「大切な音楽」についてインタビュー調査を行った。彼らの生活に密着したHIPHOP音楽を媒介とした語りの特徴について，計量テキスト分析を通して探索的に検討する。

OR-10
刑事処分を受けた加害者が再び加害に至る心理的背景と特徴について
○中村 大輔 [1, 2]（[1] 神戸臨床心理カウンセリングルーム研心音，[2] 兵庫県議会議員）

本研究は，刑事罰を受けた後に再び加害を起こしてしまった性犯罪加害者群と窃盗加害者群の心理的特徴について検討し，処遇のあり方と心理支援について考察する。

B. 非行・犯罪観

OR-11
高等学校における問題行動を予防するプログラム
－認知的歪曲の改善に焦点化した実践－
○浅野 隆 [1]，吉澤 寛之 [2]（[1] 岐阜県教育委員会，[2] 岐阜大学大学院）

問題行動の未然予防に特化したアセスメントの導入による問題行動要因の可視化と，認知の歪みの改善を目的とした系統的予防教育を実施することによる効果を検証した。

OR-12
異なる強度の表現語で表された痛みの感じ方に及ぼす攻撃性の影響
○伊藤 みなみ（追手門学院大学大学院）

痛みの感じ方の個人差の要因を攻撃性の個人差に求めた。他者の痛み（研究1：身体的痛み；研究2：心理的痛み）の感じ方が攻撃性の高低でどのように異なるかを痛みの表現語を用いて検討する。

OR-13
犯罪の加害者の被害者心情理解を促進・阻害する要因についての一考察
○畑村 晶子, 塩川 友紀子(長野刑務所)

犯罪の加害者が被害者の心情を理解するにあたって, 何が促進・阻害要因となるのか, 修復的対話の観点から先行研究を概観し, 現時点での知見や課題を整理する。

C. 各種犯罪・犯罪者・捜査

OR-14
高齢受刑者に関する国外の研究動向
○湖城 孝宗(三重刑務所)

本研究では, 海外において最近10年間で発表された, 高齢受刑者をテーマとした心理学的な研究を概観し, それを踏まえて, 我が国における彼らへの処遇の方向性を検討した。

OR-15
薬物依存回復施設につながる人の断薬状況の変化に関するカテゴリカル時系列分析
○新海 浩之 [1,2], 嶋根 卓也 [2]([1] 神奈川大学法学部, [2] 国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部)

薬物依存回復施設利用者の前向き縦断調査で得られた断酒・断薬状況の変化についてカテゴリカル時系列分析を用いて個人をグループ分けし, グループ毎の特徴を探った。

OR-16
ソーシャル・サポートと離別の予期は親密な関係破綻後のストーカー的行為を軽減させるか
○辻浦 智榮美, 小畠 秀吾(国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻)

成人男女を対象に, 親密な関係破綻を離別の対象喪失であると捉え, 喪失の回復要因である離別の予期とソーシャル・サポートのストーカー的行為に対する影響を明らかにした。

OR-17
競合リスク分析による性犯罪受刑者の(非)性犯の再犯リスク
○遊間 義一 [1], 金澤 雄一郎 [2]([1] 愛知大学・短大, [2] 国際基督教大学)

平成24年からの3年間に刑事施設を出所した男子性犯罪受刑者1,768名を対象として, 競合リスクを考慮した生存分析を行い, (非)性犯罪の再犯リスクについて検討した。

OR-18
女性万引き犯の行動の一貫性
○渡邉 和美, 横田 賀英子, 大塚 祐輔, 平間 一樹, 古橋 健悟(科学警察研究所)

女性犯罪者の多くが万引きで検挙されており, 万引きで検挙された者の多くを女性が占めている。女性万引き犯の特徴理解のため, その行動の一貫性について検討を行う。

OR-19
犯罪からの離脱における心理的要因に関する研究の動向と展望
○高野 光司(帝京平成大学)

犯罪からの離脱に関する研究は, 離脱者の社会環境やライフイベントについて調べたものが多い。そこで, 本研究では, 離脱者の心理的要因について調べた研究についてレビューする。

D. 防犯・被害・地域

OR-20
ATMにおける特殊詐欺予防錯視シートの効果検証
○土屋 耕治 [1], 原田 知佳 [2]([1] 南山大学, [2] 名城大学)

本研究では, ATMにおける特殊詐欺予防錯視シートの効果検証を報告する。立体的に見える錯視シートをATMの足元に置いた店舗とそうではない店舗で, 利用者の特殊詐欺予防認識が変化するかを検討した。

OR-21

統制機関に対する役割期待とメディア消費の関係

○讃井 知(上智大学)

犯罪や刑事司法制度に関する市民の知識の大部分はメディアから得られている。本発表ではメディア消費と，警察・裁判所・刑事施設に対する態度の関係について考察する。

E. 査定・評価

OR-22

再テスト法を用いたアイオワギャンブル課題の信頼性の検討

○荻原 彩佳[1]，遊間 義一[2]，金澤 雄一郎[3]，河原 哲雄[4]，東條 真希[5]([1] 兵庫教育大学，[2] 愛知大学短期大学部，[3] 国際基督教大学，[4] 埼玉工業大学，[5] 北海道大学環境健康科学研究教育センター)

アイオワギャンブル課題(IGT)の再検査信頼性を確認するために，大学生を対象に3週間間隔でIGTを2回実施した。IGT得点の推移の類型をもとに信頼性を検討する。

OR-23

累犯受刑者のバウムテスト(3枚法)に出現する「擬人型」と被虐待経験の関連について

○家﨑 哲(府中刑務所)

累犯受刑者にバウムテスト(3枚法)を実施し，その中に出現する「擬人型」と，彼らの被虐待経験の関連について調査し，「擬人型」の意味について検討する。

ポスター発表

A. 処遇

PO-01

刑事施設における特殊詐欺事犯を対象とした改善指導の実践
－罪障感及び出所後の就労意識に焦点を当てた検討－

○清水 翼[1], 野口 剛[1], 道重 さおり[2]([1] 松山刑務所, [2] 神戸学院大学)

今後実施予定である特殊詐欺事犯指導の効果検証の予備調査として, 本指導を受講した受刑者のアンケート及び課題作文を質的データとして扱い, 探索的な課題の抽出を行う。

PO-02

刑事手続を経た非行少年の内面の変化に関する一考察
－ロールシャッハ・テストの前後比較を通じて－

○白川 あずさ[1], 鈴木 純一[2]([1] 札幌少年鑑別所, [2] 札幌刑務所)

一連の少年審判過程を経て受刑者となった性犯罪受刑者に対し, 少年鑑別所在所中と受刑中に実施したRTの結果を比較し, その反応特徴と対象者の変化との関連性について検討する。

PO-03

受刑者の就労に関連する心理・社会的要因について(3)
－性別役割分業意識との関連－

○佐々木 彩子[1], 山岡 あゆち[2]([1] 矯正研修所効果検証センター, [2] 東京大学)

本研究では, 男女受刑者に対して実施したアンケート調査をもとに, 性別役割分業意識と逮捕時の就労状況等との関連について分析し, 性差などの検討を行う。

PO-04

受刑者が福祉的支援を希望しない要因
－当事者及び支援者の視点の比較－

○神垣 一規[1], 佐藤 将太[2]([1] 関西国際大学, [2] 広島少年院)

福祉的支援を希望しない受刑者に対するインタビュー調査の結果と福祉専門官等に対するアンケート調査の結果を比較し, 支援を希望しない要因と対策について検討する。

PO-05

再非行の抑制において非行少年を個人として尊重することの重要性
－保護司へのインタビューを通して－

○木原 真梨子, 神垣 一規（関西国際大学大学院）

インタビューを通して, 保護司が少年と関わるうえでの姿勢を明らかにすると共に, バックグラウンドに富んだ保護司の対応における共通の軸となるものを明らかにする事も試みた。

PO-06

呼吸セルフコントロールプログラムによる非行少年の呼吸感覚の変化

○反中 亜弓 [1], 徳山 敬枝 [1], 梅沢 章男 [2]([1] 名古屋少年鑑別所, [2] 福井大学）

少年院においてバイオフィードバックの手法を用いた呼吸セルフコントロールプログラムを実施した。プログラムによって見られた少年たちの呼吸感覚の変化を検討する。

B. 非行・犯罪観

PO-07

少年鑑別所において実施したP-Fスタディに対する非行少年の反応
－一般群からの比較－

○加藤 美沙 [1], 桑田 珠美 [2], 門本 泉 [3] ([1] さいたま少年鑑別所, [2] 千葉県中央児童相談所, [3] 大正大学）

P-Fスタディにおけるフラストレーション場面での反応を, 少年鑑別所に入所した非行少年と一般大学生との比較を通して検討し, 非行少年の特徴について考察する。

PO-08

コーピングの柔軟性が非行からの立ち直りに及ぼす影響

○河野 荘子 [1], 岡本 英生 [2]([1] 名古屋大学, [2] 奈良女子大学）

ストレス状況下にある時, 状況に応じて, より適切なコーピングを取捨選択できることは, 適応的に生活していく上で重要であろう。コーピングの柔軟性が, 非行からの立ち直りに及ぼす影響を検討する。

PO-09
非行から立ち直るための力についての研究
○岡本 英生 [1], 河野 荘子 [2]([1] 奈良女子大学, [2] 名古屋大学)

元非行少年を対象に非行から立ち直るための力尺度を実施した結果について発表する。

PO-10
親の養育態度がストレス状態の問題行動に与える影響
○藤原 美羽 [1], 岡本 英生 [2]([1] 奈良女子大学大学院, [2] 奈良女子大学)

大学生を対象とした調査により, 幼い頃に受けた親の養育態度が現在のストレス状態における問題行動にどのような影響を与えるのかを検討する。

PO-11
自己愛傾向, 罪悪感, そして自責感が逸脱行為への同調に影響を及ぼす要因について
○長谷川 絢子 [1], 岡本 英生 [2]([1] 奈良女子大学大学院, [2] 奈良女子大学)

自己愛傾向, 罪悪感, そして自責感が逸脱行為への同調に影響している可能性について, 大学生を対象とした調査により検討する。

PO-12
SNSの利用が主観的幸福感と攻撃性に与える影響について
○今井田 優希, 岡本 英生(奈良女子大学大学院)

SNSのポジティブな側面とネガティブな側面を理解するために, 利用動機や利用時間という側面から, 非行や犯罪の要因となりうる因子との関連について検討する。

PO-13
未成年者の「してはいけない行為」に対する社会的認知について
○楊 梦 [1], 岡本 吉生 [2]([1] 日本女子大学人間生活学研究科, [2] 日本女子大学家政学部)

未成年者が「してはいけない行為」とは何か(社会的認知)を明らかにし, これらの行為に対する原因帰属や処遇についての一般人の考えについて, 調査・分析した。

PO-14

対象者別の共感性・罪悪感が迷惑認知と迷惑行為の制止行動に及ぼす影響について

○生藤 早希子 [1], 岡本 英生 [2]([1] 奈良女子大学大学院, [2] 奈良女子大学)

対象者別の共感性・罪悪感が, 他者および自身の行為への迷惑認知とその行為の制止行動にどのような影響を与えるのかについて, 大学生を対象とした調査から検討する。

PO-15

非行歴を有する少年の被害経験と援助者の役割(2)

○堀尾 良弘(愛知県立大学)

非行少年が過去に虐待・いじめ等の被害経験を受けた際の援助要請の有無に注目し, 非行少年に対する援助者の役割について明らかにする。本研究は, 昨年度の本学会第60回大会に続く発表である。

PO-16

児童の攻撃行動が1年後の親の能動的・反応的攻撃性と養育行動に及ぼす影響

○濱口 佳和(筑波大学)

1年間の縦断的研究により, 小学1年～6年生の児童の攻撃的行動傾向が1年後の親の能動的・反応的攻撃性ならびに養育行動, 児童の攻撃行動に及ぼす影響を検討した。

PO-17

非行少年に対する態度とスティグマの関連

○坂野 剛崇(大阪経済大学)

20～60歳代の人を対象に実施した, 仮想的ビネットを用いた情報と態度レベルに関する調査をもとに, 非行少年に対するスティグマと態度との関連について検討する。

PO-18

大学生のパーソナリティとロールフルネスと共感性が非行少年に対するイメージに与える影響

○榊原 葵(金城学院大学大学院)

非行少年イメージは, パーソナリティとロールフルネス (役割満足感) との影響が認められている。本研究では, 非行少年に対する認知や情緒面への共感性も加え, 検討した。

C. 各種犯罪・犯罪者・捜査

PO-19

男性受刑者を対象としたTAT及びワルテッグ描画テストの結果から見る，対象者理解と再犯防止に関する示唆について

○森田 未希[1]，鈴木 純一[2]([1] 札幌刑務支所，[2] 札幌刑務所)

凶悪事件をじゃっ起した男性受刑者を対象とした，TATとワルテッグ描画テストの結果及び解釈を比較検討し，テストバッテリーの可能性と意義について考察した。

PO-20

受刑者の加害者態度
－生命犯と財産犯について－

○關崎 勉(函館少年刑務所)

受刑者の加害者態度を，「犯行と加害」，「被害者とその家族」，「謝罪と被害弁償」，「被害者支援と被害者の視点を取り入れた教育」の観点から調査し，考察した。

PO-21

受刑者の顕在的・潜在的自尊心が性格特性に与える影響

○川村 遼(函館少年刑務所)

受刑者の顕在的自尊心，潜在的自尊心を測定し，各自尊心のかい離の大きさ及び優位な方向が性格特性(法務省式人格目録)に与える影響について検討する。

PO-22

性犯罪者の犯行時間の一貫性と犯人像との関連

○古橋 健悟，横田 賀英子，大塚 祐輔，平間 一樹，渡邉 和美(科学警察研究所)

同一犯による連続性犯罪において，犯行時間の一貫性について検討する。具体的には，犯行時間の一貫性が高くなることにつながる犯人特徴，行動特徴を明らかにする。

PO-23

一連事件において複数罪種が混在する場合の事件リンク分析

○大塚 祐輔, 横田 賀英子, 平間 一樹, 古橋 健悟, 渡邉 和美(科学警察研究所)

本研究においては, 同一犯人が一連事件において性犯罪と窃盗を敢行する場合の犯人特徴と犯行特徴について, 事件リンク分析の観点から検討を行う。

PO-24

眼球運動を用いた隠匿情報検査における単独提示の効果
－自律神経系指標との同時測定の試み－

○細谷 朱莉 [1], 大杉 朱美 [2]([1] 福山大学大学院人間科学研究科, [2] 福山大学人間文化学部)

隠匿情報検査において, 自律神経系指標と眼球運動指標の同時測定を行い, 刺激を単独提示かつ提示位置を変化させた場合に裁決刺激の検出が可能かを検討した。

PO-25

わいせつ目的事件の事件リンク分析

○大塚 朋美(神奈川県警察本部科学捜査研究所)

わいせつ目的事件について罪種横断的な事件リンク分析法の検討を行った。比較的事件リンクが困難とされる条件下で, 犯行行動のみによる予測モデルの効果を検証した。

PO-26

虚偽検出検査時の眼球運動変化の検証

○松村 珠理(法政大学人文科学研究科)

非接触型眼球運動測定を用いた虚偽検出検査の利用可能性の検討を行う上で, 隠匿意図を有している際に変化が生じる眼球運動指標の抽出を目的とした。

PO-27

反応時間を用いた隠匿情報検査における強化型プロトコルの検討
－刺激の文字形態が及ぼす影響－

○藤村 天羽 [1], 大杉 朱美 [2]([1] 福山大学大学院人間科学研究科, [2] 福山大学)

刺激の文字形態が反応時間を用いた隠匿情報検査に及ぼす影響を検討した。ここでは, フィラー項目を含む強化型プロトコルにおいて, ひらがな条件と漢字の混在条件を比較した。

PO-28

出所者に対するイメージ・態度に関する検討

○見城 晴香, 桐生 正幸(東洋大学大学院)

本研究では, 大学生を対象に, 複数の罪種の出所者に対して, それぞれどのようなイメージが抱かれ, どのような態度が示されるのかを探索的に検討した。

PO-29

目撃者に対する面接者の発話内容と面接者の事件に関する知識の有無との関係

○山﨑 優子 [1], 仲 真紀子 [2]([1] 駿河台大学, [2] 理化学研究所)

自由報告を重視する面接法を用いて模擬事件の目撃者から情報を聴取する実験を実施した。模擬事件に関する面接者の知識の有無と面接者の発話内容との関係を明らかにする。

D. 防犯・被害・地域

PO-30

犯罪発生地点における環境評価およびリスク評価の検討

○蘇 雨青 [1], 桐生 正幸 [2]([1] 東洋大学大学院, [2] 東洋大学)

本研究では犯罪発生現場の画像刺激および犯罪発生なし地点の画像刺激を用いて, 一般人の環境評価とリスク評価の違いを検討することを目的とする。

PO-31

レイプ神話が性暴力被害者のトラウマ反応および援助要請行動に与える影響の検討
－Male Rape Myth Scale（MRMS）日本語版の作成を通して－

○小林 晴菜[1]，齋藤 梓[2]（[1] 目白大学大学院，[2] 上智大学）

男性レイプ神話尺度の日本語版を作成し，オンラインリサーチを用いて，性暴力被害者の援助要請行動及びトラウマ反応へレイプ神話がどのような影響を与えるのか検討を行なった。

PO-32

グルーミングの手口に対する青年期女子の反応とその関連要因

○藤原 佑貴，和智 妙子，久原 恵理子，宮寺 貴之（科学警察研究所）

青年期女子に対して，グルーミングの手口を含むSNS上のやりとりを提示するシナリオ実験を行った。参加者の反応とそれに関連する要因を検討した結果を報告する。

PO-33

女子中高生のインターネット上のリスク行動と保護者の制限的介入

○宮寺 貴之，藤原 佑貴，久原 恵理子（科学警察研究所）

女子中高生の自画撮り被害に関する全国調査のデータを用い，インターネット上のリスク行動と，保護者の制限的介入としての家庭内のルールや遵守意識等との関連を検討する。

PO-34

日本における「性犯罪者に対する態度尺度（ATS-21）」の適用可能性の検討

○松嶋 祐子（専修大学）

日本における性犯罪者に対する態度を研究するための第一歩として，ATS-21（The Attitude to Sexual Offenders scale 21-item version: Hogue & Harper, 2018）を日本国内で実施し，日本への適用可能性を検討した。

PO-35
店舗向け万引き対策チェックリストの開発
－店舗責任者による自己評価と専門家による評価の関連から－
○大久保 智生（香川大学）

本研究の目的は，店舗向け万引き対策チェックリストを開発することであった。店舗責任者による自己評価と専門家による評価の関連について検討を行った。

PO-36
高齢者の特殊詐欺被害リスク要因とその介入可能性
－縦断社会調査から－
○島田 貴仁（科学警察研究所）

首都圏の1市の65-84歳に在住する高齢者2800名に対する縦断調査を行い，前兆電話経験や欺罔のリスク要因と，各種対策によるリスクの軽減可能性を検討した。

E. 査定・評価

PO-37
日本人ギャンブラーの性格特性に関する研究
－Dark Triadに着目して－
○髙田 琢弘（東海学園大学）

本研究では，ギャンブル障害傾向とDark Triadとの関連を検討することを目的として，360名の日本人ギャンブラーを対象にWEB調査を実施した。

PO-38
少年鑑別所在所者に対するヤングケアラーに関する調査について
○東山 哲也[1]，今村 有子[2]，木下 寛法[3]，今原 かすみ[4]，平井 聖大[4]，田保 将平[4]（[1] 函館少年鑑別支所，[2] さいたま少年鑑別所，[3] 新潟少年鑑別所，[4] 大阪少年鑑別所）

少年鑑別所在所者に対してヤングケアラーの観点から実情調査し，一般の青少年における調査結果と比較するとともに，ヤングケアラーである非行少年の特徴について検討する。

PO-39
分からない理由を区別して回答する方法の検証
○久原 恵理子（科学警察研究所）

小学校2年生と年長児を対象として，質問が分からない時にその理由を適切に判断して回答できるよう促す方法を検証した。本研究ではその分析結果を報告する。

PO-40
「雨の中の私」の”私がいない画”に関する考察
○栗本 夏織，髙田 夏子（専修大学）

「雨の中の私」で「私がいない」画が描かれた。描かれた理由について，伝統的な自己の在り方，時代背景の影響による変化など，様々な観点から考察を試みたので，報告する。

PO-41
クリシ・ワルテッグシステムから見た男性受刑者の特徴について
○鈴木 純一 [1]，村上 貢 [2]（[1] 札幌刑務所，[2] 村上カウンセリングオフィス）

男性受刑者に対して，ワルテッグ・テストの解釈法の1つであるクリシ・ワルテッグシステムを実施し，その反応特徴についての量的検討を通じ，男性受刑者の特徴について探索的に検討した。

PO-42
少年鑑別所にて実施したPFスタディ検査に対する非行少年の反応
－性格傾向との関連について－
○南 卓志 [1]，加藤 美沙 [2]，稲葉 凌太郎 [3]（[1] 松本少年刑務所，[2] さいたま少年鑑別所，[3] 宇都宮少年鑑別所）

少年鑑別所に入所した非行少年のPFスタディにおけるフラストレーション場面での反応と，性格傾向の関連について検討し，非行少年の特徴について考察する。

PO-43

非行を有する青少年の非自殺性自傷行為の態様・機能に関する性差の検討

○高橋 哲[1], 今原 かすみ[2], 宮本 悠起子[3], 明星 佳世子[4], 安田 美智子[5], 門本 泉[6]([1] お茶の水女子大学, [2] 大阪少年鑑別所, [3] 名古屋少年鑑別所, [4] 京都少年鑑別所, [5] 大阪刑務所, [6] 大正大学)

少年鑑別所在所者約450名を対象に非自殺性自傷行為の態様・機能等に関する自記式質問紙調査を実施し, 主として性差の観点から分析・検討を行う。

PO-44

初入薬物事犯者の自己評価の正確さに関する検討

－メタ認知に着目して－

○受田 恵理[1,2]([1] 小学館集英社プロダクション, [2] 法政大学大学院)

教育プログラムの効果測定のあり方について検討するため, 自己評価の正確性について, 一般知識問題に対する自己評価のバイアス等を指標とし, メタ認知の観点から検証した。

PO-45

司法心理臨床においてTATを用いることのアドバンテージ

－内的モデル仮説からの検討－

○中島 啓之(名古屋刑務所)

TATにおける認知過程を検討することで, 本法が内的モデルの精度や予測誤差への対処スタイルを明らかにし, 語り手の信頼性や力動を判断する上で有効なことを示したい。

PO-46

性犯罪受刑者の受刑中の対人態度の変化についての考察

－リテストしたTATの反応特徴を前後比較した結果から－

○中田 麻衣(札幌刑務所)

性犯罪受刑者を対象に, 受刑中に実施したTATのリテストの結果について, その対人関係の捉え方を中心に比較検討し, 受刑生活における対人態度の変化との関係について考察した。

PO-47

性犯罪者の愛着スタイルについて(5)

―犯罪内容別の視点から―

○星 あづさ(愛知教育大学)

性犯罪者は犯罪内容(手口)によって,愛着スタイル類型に傾向があることがわかっている。しかし,わが国ではその点についての詳しい研究が少ないことから,本研究で知見を呈示したい。

PO-48

TATに関する文献展望

－分析・解釈に関して－

○中島 賢[1], 田口 みのり[2], 三好 由希帆[3], 工藤 彩乃[3], 鈴谷 真美[4], 東海林 弓月[4], 林 桜子[5], 福田 茉央[6]([1] 鳥取少年鑑別支所, [2] 横浜少年鑑別所, [3] 美祢社会復帰促進センター, [4] 広島少年鑑別所, [5] 矯正研修所効果検証センター, [6] 大阪少年鑑別所)

心理検査の一つであるTAT(主題統覚検査)に関する文献や先行研究,特に分析や解釈に関するものを展望し,TATの反応を事例理解につなげる方法等を考察する。

PO-49

TATにおける基本反応と中核反応に関する検討(3)

○関山 徹(鹿児島大学教育学研究科)

Thematic Apperception Testの各図版の物語類型を出現頻度の観点から基本反応(7割程度)と中核反応(4割程度)として設定し,その意味や有効性について量的に検討した。

日本犯罪心理学会第 61 回大会賛助団体御芳名

株式会社　明石書店　　株式会社　風間書房

株式会社　北大路書房　　株式会社　金剛出版

株式会社　誠信書房

公益財団法人　日工組社会安全研究財団　　（五十音順）

本大会を開催するにあたり，上記の機関・企業より多大なご支援をいただきました。ここにその御芳名を記して，心から感謝の意を表します。

2023 年 8 月

日本犯罪心理学会第 61 回大会準備委員長
高橋　哲

日本犯罪心理学会第 61 回大会準備委員会

委員長　高橋　哲（お茶の水女子大学）
委　員　大江　由香（川越少年刑務所）
門本　泉（大正大学）
佐々木　彩子（矯正研修所）
谷　真如（内閣官房）
山岡　あゆち（東京大学）
横田　賀英子（科学警察研究所）
五十音順

日本犯罪心理学会第 61 回大会プログラム

主　催：日本犯罪心理学会

発行月：2023 年 8 月

発行者：〒112-8610
東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学　高橋　哲　研究室内
日本犯罪心理学会第 61 回大会準備委員会

「うらみ」の心理学的特徴の検討
鈴木　拓朗著　六〇五〇円

犯罪からの子どもの安全教育プログラムに関する基礎的研究
清永　奈穂著　七七〇〇円

日常生活における他者操作の社会心理学的研究
木川　智美著　六六〇〇円

思春期の注意欠如・多動傾向と情緒の問題に関する心理学的研究
齊藤　彩著　六〇五〇円

発達障害児者の母親の成長とその支援
辻　あゆみ著　四一八〇円

親密な関係間の性暴力の判断に関する心理学的研究
北風菜穂子著　六六〇〇円

パートナーに対する暴力のメカニズム
喜入　暁著　七七〇〇円

ゲーム感覚で身につく論文執筆
飯村周平・松井智子・宅　香菜子著　二二〇〇円

発達障害等を有する非行少年と発達支援の研究
内藤　千尋著　七七〇〇円

中学生へのドメスティック・バイオレンス予防啓発に関する研究
須賀　朋子著　六六〇〇円

裁判員裁判における量刑判断に関する心理学的研究
板山　昂著　七七〇〇円

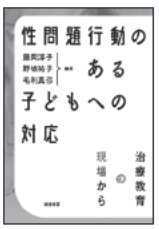
高齢者犯罪の総合的研究
細井洋子・辰野文理編著　六六〇〇円

別居・離婚後の子どもの心理的適応に関する研究
直原　康光著　予価一一〇〇円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729　FAX 03-3291-5757
風間書房
https://www.kazamashobo.co.jp
E-mail pub@kazamashobo.co.jp（価格税込）

子どもへの性暴力［第2版］

【その理解と支援】藤森和美・野坂祐子 編
深刻化する子どもへの性暴力の現実を解説し、最新の支援を具体的に示す。関連法改正も踏まえ大幅刷新。最新の研究と実践に基づいて各章と事例を大きく拡充した第2版が、日々の支援をさらに向上させる。【2970円】

性問題行動のある子どもへの対応

【治療教育の現場から】藤岡淳子・野坂祐子・毛利真弓 編著　児童福祉機関における性問題行動への治療教育プログラムの実践を振り返りつつ、理論的な基礎から臨床上のコツまで、具体的に論じる。【2970円】

虐待を受けた子どものアセスメントとケア

【心理・福祉領域からの支援と協働】鵜飼奈津子・服部隆志 編著　子ども虐待に関わる心理職と福祉職の双方の事例を1冊に納めた書。支援の難しい重篤な虐待を受けた子どもを援助する専門職必携の書。【3630円】

アディクション・サイコロジー

【依存・嗜癖問題からみた人間の本質】
廣中直行 著　実験心理学、神経科学、薬理学を専門とする著者がアディクション問題について、臨床・支援の現場に軽妙な語り口で投げかける力作。【3080円】

心理学のための統計学 9
犯罪心理学のための統計学

【犯人のココロをさぐる】
松田いづみ・荘島宏二郎 著
犯人像の絞り込みを行うプロファイラーが、多次元尺度法、決定木、生存時間分析など、現場で活きる統計学を解説する。【2860円】

子どものポストトラウマティック・プレイ

【虐待によるトラウマの心理療法】エリアナ・ギル 著 西澤 哲 監訳　トラウマ体験が遊びの中で再演されるプレイを治療に生かし、治癒に導くための理論と技法。子どものトラウマに関わる全ての治療者に。【3850円】

誠信書房 SEISHIN SHOBO
Tel 03-3946-5666　Fax 03-3945-8880　https://www.seishinshobo.co.jp/　@seishinshobo
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-6

2024年度
研究助成の募集

日工組社会安全研究財団は、1987 年(昭和 62 年)に、パチンコ遊技機のメーカーで組織された日本遊技機工業組合(日工組)の社会貢献活動の一環として、「公共の安全と秩序の維持に寄与すること」を目的として設立された団体です。同組合加盟各社の支援を得て、安全問題解決のための研究・事業を推進しています。

＜助成対象分野＞

少年非行防止対策、子ども・少年・女性・高齢者を対象とする犯罪等の防止対策、組織犯罪対策、薬物銃器犯罪対策、犯罪の国際化への対策、犯罪被害者支援対策、マイノリティ・マジョリティの安全安心な共生のための対策等、社会安全問題に関する社会科学の研究を主として助成の対象といたします。

助成種別	助成の対象	1件当たりの助成上限額
一般研究助成	個人又はグループによる研究	300 万円
若手研究助成	40 歳以下の個人研究	100 万円

募集期間:2023 年 11 月 1 日(水)～同 11 月 30 日(木)

決定時期:2024 年 3 月上旬

助成期間:助成金交付時(2024 年 4 月)より 1 年半

募集に関する詳細、助成件数、採択研究課題等過去の実績は、当財団ウェブサイトをご覧ください。

社安研　検索

公益財団法人 日工組(にっこうそ)社会安全研究財団

東京都千代田区内神田 1-7-8 大手町佐野ビル 6 階
TEL:03-3219-5177

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com（価格税込）

犯罪行動の心理学［原著第6版］

J. ボンタ，D. A. アンドリュース著　原田隆之訳
A5上製・544頁・定価7150円　膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し，科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個別性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ，その重要性を示す。世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与えた原著第６版。

テキスト 司法・犯罪心理学

越智啓太，桐生正幸編著　A5上製・632頁・定価6380円　本物の犯罪心理学を学ぶための骨太な教科書。「犯罪行動」「捜査・防犯・矯正」の２部で構成。プロファイリング，ポリグラフ検査，目撃証言，取調べなど，行動科学的な犯罪心理学を中心に，実証的知見を数多く取り入れて編集。日本における真の犯罪心理学者の姿が浮かぶ仕掛け。

記憶現象の心理学

ー日常の不思議な体験を探るー　A. M. クリアリー，B. L. シュワルツ編　清水寛之ほか訳　A5・560頁・定価6380円　デジャビュ現象や「喉まで出かかっているのに出てこない」状態等，人間の記憶の不思議な現象に焦点を当て，逆照射的に記憶のメカニズムに接近。これまでの研究知見に疑問を呈する。

ドムヤンの学習と行動の原理［原著第7版］

M. ドムヤン著　漆原宏次，坂野雄二監訳　B5上製・424頁・定価7920円　学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト，待望の邦訳。行動の誘発，強化，制御，消去，変容に関わる学習の原理，およびその広範な活用について，神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

コンパクト司法・犯罪心理学

ー初歩から卒論・修論作成のヒントまでー　河野荘子，岡本英生編著　A5・160頁・定価1980円　少年院法の改正や再犯の防止等の推進に関する法律の施行等，犯罪を取り巻く法整備はここ数年で進展している。本書はエビデンスに基づいた各領域の研究成果を幅広く解説。公認心理師制度にも対応。

ケースで学ぶ犯罪心理学

越智啓太著　A5・184頁・定価2090円　殺人，テロ，性犯罪，ストーキング，DV，放火など，事例（罪種）ごとに犯罪心理学の知見を紹介。捜査心理学や犯罪者行動分析を中心としたコンパクトな入門書である。実際の事件の解説が70余り盛り込まれており，臨場感そのままに犯罪心理学を学ぶことができる。

〈よそおい〉の心理学

ーサバイブ技法としての身体装飾ー　荒川　歩，鈴木公啓，木戸彩恵編著　A5・280頁・定価3740円　なぜ，私たちは今日も〈よそおい〉続けるのか？　普段の役割を降りるツール，自他の関係調整ツール，ジェンダーワークといった心理的社会的機能の観点から，衣服，化粧，ピアッシングなどの身体装飾の行為を考察。

パーソナリティのHファクター

ー自己中心的で，欺瞞的で，貪欲な人たちー　K. リー，M. C. アシュトン著　小塩真司監訳　四六・208頁・定価2640円　自分を利するために計算高く他人を操る，特別な地位や権利を得るに値すると自惚れている…… Hファクターの低い人々。パーソナリティのHEXACOモデルを発案した心理学者たちが，彼らに特徴的な性格傾向や行動様式を解説する。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事〔全20巻〕完結！

シリーズ 監修　太田信夫
●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

1 感覚・知覚心理学	2 神経・生理心理学	3 認知心理学	4 学習心理学	5 発達心理学
6 高齢者心理学	7 教育・学校心理学	8 臨床心理学	9 知能・性格心理学	10 社会心理学
11 産業・組織心理学	12 健康心理学	13 スポーツ心理学	14 福祉心理学	15 障害者心理学
16 司法・犯罪心理学	17 環境心理学	18 交通心理学	19 音響・音楽心理学	20 ICT・情報行動心理学